

令和4年度 第2回八尾市総合計画審議会
議事録

日 時：令和5年3月24日（金）18時30分～20時20分

場 所：八尾市役所本館 6階 大会議室

出席者：和田会長（Web参加）、和泉副会長、大平委員、伊藤委員、鈴木委員（Web参加）、
川野委員、椎野委員、足立委員（Web参加）、石村委員、辰巳委員
事務局（関係課含む）

欠席者：大谷委員、吉田委員、大本委員、斧田委員、野村委員

1. 開会

2. 議事 1. 地方創生・総合戦略に係る国の動向及び市対応等

和田会長

では次第に沿って進めさせていただきます。

まず、議事 1 地方創生総合戦略に係る国の動向及び市の対応等 につきまして、事務局、
ご説明よろしくお願いたします。

事務局

（資料1説明）

和田会長

ただいま、「地方創生・総合戦略に係る国の動向及び市の対応等」について、事務局より
説明がありました。

ご説明を踏まえ、行政のデジタル化やデジタルを活用した取り組みについて、各委員より
自由な発想で、ご意見をいただきたいと思えます。

ご意見等あれば、挙手願います。いかがでしょうか。

伊藤委員

オンライン学習環境の整備について、どの程度活用されているのでしょうか。

1日すべての授業をオンラインで学習できるような体制になっているのでしょうか。

オンライン学習環境が整備されるのは非常にいいことだと思いますが、一部だけや一定
期間だけということではなく、学校で授業を受けるのと同じように自宅で授業を受けられる
ということが大事だと思いますので、そういう取り組みはもうできてるのであればいいで
すが、できてないのであれば今後進めていただけたらと思います。

和田会長

伊藤委員ありがとうございました。

事務局、ご説明よろしくお願ひいたします。

事務局

所管は教育委員会になりますが、本日出席しておりませんので代わりにお答えします。現在、児童生徒 1 人 1 台タブレット端末が配布されており、これを活用した授業が行われています。

オンライン学習の活用状況については、学校によって違いがありますが、Web 会議システムを使用してオンライン授業をおこなっている学校もあります。

伊藤委員

繰り返しになりますが、一部だけできているということではなく、誰でも同じような環境で授業を受けられることが大事だと思いますので、これから特徴的なことをするというよりは普及をしていくということが大事と思いました。

和田会長

ありがとうございました。

今日は教育委員会の方がいらっしゃらないということですが、伊藤委員がおっしゃったように、SDGs の誰も取り残さないという考え方もありますし、学校によって差があるということは今後自治体の課題になってくるかと思ひます。

学校同士が連携して、格差のないような仕組みをしっかりと作っていただく必要があると思ひます。

事務局から教育委員会への申し送りよろしくお願ひいたします。

引き続きいかがでしょうか。

椎野委員

行政のデジタル化について、民間の会社と違って、市民の方に広く理解してもらうことがデジタルを普及する上で重要であり、デジタル化に消極的な方達にいかん利用してもらうかということが課題になると思ひます。

そのためには、デジタル化によってコストや人手の負担が減ったところから、デジタル化に関する相談窓口のようなアナログな部分にコストや人手をかけて対応することが、デジタル化を進める一つのポイントになると思ひます。

和田会長

貴重なご意見ありがとうございました。

民間と公共サービスの大きな違いについてご指摘いただきました。

デジタル化に無関心な方へのサポート、アナログな部分にどれだけ行政が対応していくかという重要なご指摘だったと思います。

椎野委員のご意見について、事務局はどうお考えでしょうか。

事務局

その点については、行政としても課題として認識しています。

今はちょうどアナログからデジタルへの過渡期にあるのではないかと考えており、デジタル化された行政サービスのみではなく、デジタルとアナログの併用というところが多い状況です。

その分、事務負担は増える場面がありますが、これを過渡期ととらえて、誰1人取り残すことなく行政サービスが行き渡るように、今後も取り組んでいかなければならないと課題認識しております。

和田会長

ありがとうございます。

過渡期というのは、むしろ一番コストがかかると思います。

そこへ時間とコストをかけることによって、最終的にスムーズなデジタル化に繋がると思います。

拙速にデジタルを進めてしまうと、後々、取り残されたところにもっとコストがかかってしまうということになりますので、デジタル化移行は丁寧に行っていくという事務局からのお答えでした。

ほか、いかがでしょうか。

大平委員

デジタル化はあくまで手段なので、デジタル化によっていかに利便性が高まるかというところに誘導していくしかないと思います。

資料に「やおっぷ・カタログポケット」の記載がありますが、市民が欲しい情報が、行政のホームページではなかなかわかりにくいところがあります。

欲しい情報がキーワードや冊子等でこの中で出てくれば、市民の方に利用してもらえるのかなと思います。

質問ですが、「やおっぷ」にはどれぐらいのコンテンツ数があり、どれぐらい集約されているのか、またそれを見やすくするための工夫について教えていただけますか。

和田会長

事務局、お願いします。

事務局

「やおっぷ」は八尾市オリジナルのアプリで、もともと子育てや防災とか、それぞれの部局がバラバラに作っていたアプリを一つにまとめたものとなっております。

現在、防災、ごみ、子育て、道路河川、公園、観光、市が行うイベント情報等をアプリで入手できます。

特に子育て分野や、ごみのカレンダー確認等は非常に利用者が多いという状況です。

このアプリにすべての市の情報を集約するとアプリがかなり重たくなってしまいますので、アプリから市のホームページに遷移するような誘導の一つのツールとして戦略的にこれを使っています。

大平委員

今どれぐらいのコンテンツ数があって、どれぐらいの利用者がいるのでしょうか。

その数をどう引き上げていくのか、そのあたりはどうでしょうか。

事務局

申し訳ありません。

数値に関しては資料を持ち合わせていませんが、転入されるときに、市民課で「やおっぷ」のチラシをお渡ししているので、多くの方がダウンロードしていると聞いています。

大平委員

役所の発信は役所目線ですってしまうところがあります。

このアプリについても、実際に使っている人から、使い勝手や欲しい情報ということをしつかりと吸い上げながら、市の窓口となるアプリをしつかりと作り込んで、このアプリを使っている人から口コミで広がるようにしていくしかないと思います。

いかに使い勝手のいいものにしていくか。ここは肝かなと思うので、各部局の情報がこのアプリに集まっていますよというだけでは、ホームページと変わらないので、そこをいかに作り込んでいっていかってということに注力していただけると、デジタルツールを使っていたかくようになっていくのではないかと思います。

和田会長

ありがとうございます。

本日、市民委員の方が3名ご出席です。

こうすれば市民の方々が、アクセスしやすいというようなご意見がありましたら、いかがでしょうか。

辰巳委員

私は「やおっぷ」というアプリがあることを知りませんでした。

市へ必要な手続きをするにあたって、事前に調べてみると疑問点がいっぱい出てきたことがあり、そういう時にチャットボットとかコールボットがあればいいと思いました。

仕事をしているので、市役所に行ける時間がなく、電話もなかなかできない状況で、ホームページに書いている情報では不安だったので、「やおっぷ」や他の媒体で、疑問が解消できるツールがあればいいと、実体験から感じました。

和田会長

ありがとうございます。

実体験を事務局の方々に聞いてもらうことは大事だと思いますので、今のご意見を参考にさせていただきたいと思います。

ほか、いかがでしょうか。

大平委員

「やおっぷ」から可能な手続きと、その手続き対応のためのチャットボットを作るのであれば、それぞれが独立してではなく、リンクするようにするととても便利だと思います。

和田会長

ありがとうございます。

今のアイデアも事務局はご参考にしていただければと思います。

3. 議事2. 今年度の本市における地方創生に係る取り組み

和田会長

それでは、議事2. 今年度の本市における地方創生に係る取り組みについて、事務局、ご説明をお願いします。

事務局

取り組みの効果検証等については、次年度の審議会で実施することとなりますので、本日の議事においては取り組み状況のご紹介のみとなります。

(資料2・3説明)

和田会長

ただいま、今年度の八尾市における地方創生に係る取り組みについて、事務局より説明が

ありました。

取組の効果検証は次年度に実施するので、特に意見交換等は実施しませんが、ただいま説明がありました内容について、不明な点や確認したい点があれば、挙手をお願いいたします。

伊藤委員

資料2の3ページに、動画で配信している取材件数34%、動画本数7本と記載されていますが、これはホームページで公開してるのでしょうか。それともYouTubeやTikTokといったSNSで発信してるのでしょうか。

事務局

動画はYouTubeで配信しています。

内容につきましては、SNSや産業情報ポータル等で情報発信しています。

伊藤委員

多くの人に目に触れるには、いろんな媒体で発信したほうがいいと思いますので、YouTube以外にも動画配信できるかと思いますので、そちらの方でもやられたらいいかと思いました。

和田会長

ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

大平委員

資料2の1ページに記載されている付加価値額の推移を見ると、2006年から2007年にかけて付加価値額が急激に上がって、その後少し下がって横ばい、2015年からまた右肩に上がっていますが、この要因分析をされたのか、またそれを政策に反映されてるのかどうかを教えてください。

事務局

付加価値額が横ばいであるところからスタートと考えていまして、より付加価値を上げていくということを目指して、こういったデータやいろんな都市と比較をしながら見ているところです。

平成27年から高付加価値化支援事業をしておりまして、商品開発とか運用分野の展開支援を行っており、それに合わせて付加価値が上がっていると考えています。

大平委員

一番大きく上がってる 2006 年から 2007 年ですが、この要因分析はされたのでしょうか。

事務局

それについては分析できてなかったなので、確認しておきます。

大平委員

大きく増加しているので、何かトリガーがあったと思います。

増加した要因を知っていると、政策の効果があったかどうかわかるでしょうし、例えば大企業が何か大きな取組を行ったことで伸びてるといったようなこともわかると思います。

和田会長

ありがとうございます。

ご説明の中でも付加価値額の可視化とありましたが、数字の分析をしっかりと行うことで政策の効果がより高まっていくと思いますので、事務局、よろしくお願いします。

ほか、いかがでしょうか。

石村委員

資料 2 の 3 ページに、LINE 登録について記載がありますが、登録数を増やすためにどういった工夫をしているのか教えていただけますか。

事務局

いろんなイベントや支援策と、このラインの登録を連携させて登録数を増やしています。

和田会長

ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

企業版ふるさと納税の魅力や、ご意見、アドバイスがありましたら挙手願います。

いかがでしょうか。

伊藤委員

どういうインセンティブで、八尾市以外の企業が八尾市に寄付したのか、その理由がわかれば教えていただきたいです。

和田会長

事務局願います。

事務局

寄付実績の詳細な内容までは把握していませんが、例えば、もともと本社が八尾市にあり、八尾市に対する思い入れがあって、本制度を利用して寄付をされたというようなケースがあったと聞いています。

本制度やガバメントクラウドファンディングについてもそうですが、訴えかける力が強い事業が寄付を集める傾向にあると思いますので、しっかりとアピールできるように努めていきたいと考えています。

和田会長

企業の方がシビックプライドから、企業版ふるさと納税を活用することもあると思います。資料2と資料3は、それぞれ別事業ですけども、バラバラに考えるのではなく、一つのストーリーとして考えると、より企業版ふるさと納税も生きてくるのではないかと思います。

4. 議事3. 今後の地方創生に資する取り組み

和田会長

それでは、議事3. 今後の地方創生に資する取り組み について、事務局、ご説明をお願いします。

事務局

(資料4～7の説明)

和田会長

ただいま、今後の地方創生に資する取り組みについて、事務局より説明がありました。ご説明のあった4事業について、今後の八尾市における事業展開について、それぞれのお立場による独自の取り組みの提案や、市を含めた各機関の連携による取り組みの提案、より一層事業効果が高まる手法についてのご提案など、各委員より自由な発想で、ご意見をいただきたいと思います。

ご意見等あれば、挙手願います。

和泉副会長

資料5 観光コンテンツ整備事業について、バーチャルな空間から実体験につなげる狙いはよくわかります。ただし、その場合、情報のコンテンツが非常に重要になります。

観光は、選ばれる前の情報、道中に探索する情報、到達してから検索する情報と3段階で分けますが、八尾市に訪訪してもらうために、バーチャルでこういった情報を発信するのきちんと整理される必要があると思います。

資料7 関西万博に向けた取り組みについても、コンテンツはこれからということでしたが、八尾市は展示スペースを獲得してるわけですから、それを見た人に八尾市へ来てもらえるような情報の取り上げ方が必要だと思います。

資料5の下部に記載されていますが、市民や事業者を巻き込んでいくというところ、まさしくその通りだと思います。

観光持続可能性を考えると、地域住民が絡めば絡むほど、持続可能性は高まります。

したがって、来訪者数もちろんですが、できるだけ事業に関わる登場人物を増やすことを考えるといいのではないかと思います。

和田会長

ありがとうございました。

事務局、今のご発言に対してご返答いただけるようであればお願いします。

事務局

ご指摘のように、バーチャルでの魅力の発信と、実際に八尾に来ていただくための情報発信やコンテンツの作り方、また八尾で何を体験してもらうのかというところを慎重に整理しないと、実際に八尾に来た人がイメージと違ったなという印象を持たれてしまうと、そういった情報がすぐに広まってしまうことがあるので、そのあたりは慎重に取り組んでいきたいと思っています。

また、やはり観光客をいかに増やすかということだけではなく、それに伴って八尾がどれだけ活性化したのか、地域の盛り上がりにつなげていきたいと考えています。

いただいたご意見を参考にこれからもしっかりと取り組んでいきたいと思っています

和田会長

事務局ありがとうございました。

ほか、ご意見いかがでしょうか。

足立委員

資料5 観光コンテンツ整備事業について、「映画のまち・やお」の推進とありますが、資料1で「やおっぷ」が出てきていましたが、そちらとリンクさせてコンテンツをふやすと、幅広い年代に需要があるのではないかと思います。

お子様連れの方であれば、例えばアニメ映画を見に行きたいとなったときに、作品紹介であったり撮影体験ができる仕組みがあれば、その映画への興味が湧くと思いますし、八尾に魅力を感じるのではないかと思います。

和田会長

どうもありがとうございました。
事務局いかがでしょう。

事務局

ありがとうございます。

映画撮影の支援を行う中で、エキストラや撮影の協力をお願いするためにホームページで周知しております。

ご指摘のように、気楽に映画撮影の場所に子どもを連れて行きたいと思ってもらうことは非常に大切だと思っております。

一方で映画の製作者側からは、事前に撮影場所を公表しないで欲しいという声もあります。

そのため、私どもとしまして、まずエキストラ登録をしていただいて、エキストラの依頼があれば、登録された方々に情報発信して、撮影時に来ていただくような流れとしております。

また、映画の撮影場所の協力いただくボランティア登録のやり方については、情報発信が弱い部分もありますので、いろいろな媒体を活用しながら、できるだけ多くの方々が何らかの形で「映画のまち・やお」の取り組みにご協力いただけるような仕組みづくりに努めていきたいと思っております。

和田会長

足立委員から、先ほど行政のデジタル化の取り組みとの連携という、すごくいいアイデアをいただきましたけども、足立委員、今の事務局のお答えに関していかがでしょうか。

足立委員

「映画のまち・やお」を推進していくのは、そもそも八尾を知らないと話にならないと思います。情報発信という部分を強化していく必要があるのではないかと思います。

和田会長

ありがとうございました。

行政のデジタル化のところでも委員からご意見があったように、環境が整備されても住民に十分に伝わっていないところがあると思いますので、例えば万博では、空飛ぶクルマと八尾空港を活かした情報発信をよろしくお願いします。

ほか、いかがでしょうか。

伊藤委員

取り組み①「観光コンテンツ整備」と取り組み③「万博に向けた取り組み」は、個別に分けて考えるのではなくて、関西万博に向けた取り組みを行うことによって、八尾市へ観光客を呼び込むというように、連携して相乗効果が出るように考えたほうがいいと思いました。

例えば河内音頭は、八尾市が誇るべき文化だと思いますが、それを関西万博のときに披露することで、外国人は非常に興味を惹かれるのではないかと思います。

世界中に発信することによって、河内音頭を生で見てみたいということにも繋がると思っていますので、万博でアピールすることが観光客の増加にも繋がるというように、合わせて考えたほうがいいと思いました。

和田会長

ありがとうございました。

行政の縦割りになってしまわないように、各取組が相互に連携することによる相乗効果は絶対にあると思います。

事務局には、どこで連携できるかを常に考えながら、事業に取り組んでいただけたらと思います。

貴重なご意見ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

椎野委員

取り組み②「公開型 GIS 構築の取り組み」について、こういう情報の展開は非常に重要だと思っています。

当行は八尾市内の会社数百社とお取引をいただいています。コロナ禍で、業績の厳しい会社はあるが、やっぱり元気な会社が非常に多いことが八尾の特性としてあると思います。

新しい土地に新しい工場を建てたいといった前向きな設備投資を考えられてる方も多いですが、どうしても市内ではそういった土地は限られますので、八尾市内から出て行かざるをえないような会社も複数社あります。

そのような中、いろんな情報を展開しますと、民間企業の方もその情報データをもとにいろいろなことを考えて、それが地方創生や産業の新たな振興とかそういうところに繋がっていくと思います。

できるだけオープンに情報を見える形にさせていただいて、その情報を入手して新たなアイデアを生み出すような仕組みが必要だと思っています。

そういうところに資源を投入したいと思ってる会社が明らかに増えているので、そこを行政として、サポートするこういう取り組みというのは今後ますます必要になるのではないかなと思います。

和田会長

どうもありがとうございます。

前向きな設備投資を行政がどのようにサポートできるかというところですが、行政の対応として、事務局いかがでしょうか。

事務局

工場立地の誘導施策や事業者のマッチング支援施策等を考えておりまして、昨年の工場立地推進審議会の中で、再投資促進に向けた規制緩和に取り組むため、特区申請をしているところです。

また、工場立地誘導やマッチング情報について、もうちょっと少しオープンにできる手法を検討しておりまして、次年度の実施に向けて取り組んでいるところです。

椎野委員

八尾市から出ていかれるのが一番のリスクであると考えますので、その点についてよろしくをお願いします。

事務局

情報はしっかり公開していくべきだと私ども認識しています。

現在も、事業担当課それぞれで情報公開をしているところですが、市役所の窓口に来て窓口を渡り歩かなければ、欲しい情報を取得できない状況は確かにございますので、この公開型GISを使うことで、情報を取得しやすい環境づくりを進めていきたいと思っております。

都市計画の視点で事業化を検討していますが、市全体で取り組むことで、企業活動の一助になるよう取り組んでいく必要があると考えております。

和田会長

ありがとうございました。

すべての取り組みに繋がっていくGISの構築をぜひ頑張ってくださいと思います。ほか、どうでしょうか。

大平委員

GISに関しては、デジタル化を進めるという最初の議論と強くリンクすると思っております。

実需があるところでデジタル化を進めるというのはすごく大事なことだと思います。おそらく下水道データや上水道データ、都市計画データは別々の紙媒体が原資になっていて、それをそれぞれ見に行かないといけないという状態になっているのだと思いますが、それが一つのプラットフォームの上で重なるというのは、すごく実需があるんじゃないかと思

います。

例えば、デベロッパーや、こういうところに家を買いたいという人であったり、水道だけじゃなくガス管のデータ等、工事する時に必要になってくるデータを役所だけじゃなくて、民間のデータをうまく重ねていくことで、こういうツールが広く浸透していくのではないかと思います。

事業を組み立てる時にそういうところを意識してやっていただくと非常にいいのではないかと思います。

事務局

事務局から補足説明でございます。

都市計画という一つのレイヤーがありまして、そこで都市計画情報をすべて見るができるようになります。

また、都市計画以外の情報については、すでに GIS データを持ってる部署のデータを活用する方向で考えています。

どんな活用ができるかも含めて、市民の方に使いやすいシステムにしていきたいと考えております。

大平委員

使ってもらう方のイメージをしながらデータを構築していくと、使い勝手がわかってくると思うので、プラットフォームがあれば順次、コンテンツを追加すればいいだけだと思うので、ぜひいいものを作っていただきたいと思います。

部署横断的じゃないと絶対できないと思いますので、総合政策を担当する部署が音頭を取って、庁内横断でやっていただけたらいいんじゃないかなと思います。

和田会長

アドバイスありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

和泉副会長

観光に特化した話ですが、デジタル化はもちろん必要なことですが、デジタル化一辺倒になるのは、観光の場合は少し考えたほうがいいのかと思っています。

スマートフォンで観光するのと、紙の地図で観光するのは、紙の地図の方が満足度が高いというデータがあります。

観光に関しては、アナログな部分も残しておく方が良いのかなと思いますので、すべてをデジタル化するというところではなくて、デジタル化すべきところとそうでないところを分けて考えるのが必要だと思います。

小学生を対象に社会実験的なことをしていると、宝探しのように地図を広げて楽しんでいくところもあるので、そういうところは少し考えられた方がいいかと思います。

それからプラットフォームについて、先ほど申し上げた地域住民の方が参画してつくっていくという工夫がもう少し必要と感じています。

自分たちも観光を作っているんだという気持ちを地域住民の方々にも持ってもらうことが必要だと思います。

観光は、もちろん経済的な効果に重きを置くわけですが、観光によって地域が繋がったり、活性化したりという経済的な部分以外でも効果が十分見込めますので、そういうところを意識しながら、地域住民の皆さんにも参画してもらえそうな仕組みが必要だと思います。また、コンテンツそのものにも地域住民の方が登場する方がいいと思います。スマートフォンで、商店街のコロケがおいしいという文字と写真をアップするだけじゃなくて、そこにコロケ屋の方がいたほうがいいと思います。

そういう温かい仕組みを作っていく必要があるのではと思います。

和田会長

ありがとうございます。

ただいまのアイデアとかご提言につきまして、事務局、いかがでしょうか。

事務局

紙の地図とデジタル地図の満足度の話については、私どももいろいろなところから聞いております。

スマホの画面を見て歩くのではなく、地図を広げながら、友達同士で大きく鳥瞰できるようところがやはりいいという声もいただいております。

そういったところの使い分けも考えながらやっていきたいと思います。

またコンテンツにつきましても、市が一方向的に作るのではなく、できる限り、実際に体験を提供している方々の声であったり、その人たち自身の声で、自分の魅力を発信してもらうというような取り組みを入れながら、いろんな人達が関わったコンテンツ作りを進めていきたいと思っております。

和田会長

ありがとうございます。

紙媒体の地図が本当に減ってきていると感じますし、和泉副会長もおっしゃったように、小学生は宝探しのような感覚のところもあると思います。

デジタル化の先進的な取り組みも大事ですが、アナログならではの良い面も事務局の方々に考えていただきたいと思います。

アナログとデジタルのバランスというのは、今日の会議の中ではたびたび出てきたテー

マではないかと思った次第でございます。

その辺り、事務局でも検討されるということでした。

地域の方をうまく巻き込みながらコンテンツを作るとか、先ほど言いましたシビックプライドというものが要求される時代でございますし、小学生の社会見学など教育委員会にも観光の取り組みにうまく絡んでいただきたいと思いますので、事務局にもこの点考慮いただけたらと思います

ほか、いかがでしょうか。

伊藤委員

八尾市を舞台にした映画は、どういうものがあるか教えてもらえますか。

事務局

「映画のまち・やお」というのは、八尾を舞台にした映画を撮影することではなくて、八尾市で映画の撮影をすることで、そこに八尾のまちやお店、市民が関わったり、映り込んだりすることによって、八尾の魅力を映画という手法を使って全国に広めていくという取り組みをさせていただいております。

伊藤委員

八尾をロケ地にした映画ということですね。

そういう映画は具体的にどんなものがあるのでしょうか。

事務局

公開前でお伝えすることができない映画もありますが、短編映画や小劇場で上映されている映画、全国の映画祭に出展されている映画も多くあります。

伊藤委員

わかりました。

和田会長

ほか、いかがでしょうか。

石村委員

資料5 「観光コンテンツ整備事業」に記載されている枝豆や若ごぼうの収穫をオンラインで体験するというところですが、農業は農地へ行かないと体験できないというイメージがありますが、どのような仕組みを考えているのでしょうか。

事務局

実際の収穫をデジタル的に触感で体験できるというものはありますが、非常に高度な技術と費用もかかってくることとなります。

まず収穫風景を見てもらって、実際にやってみようと思ってもらう取り組みを、一つの案として考えております。

今後、具体的に事業者の方と詰めていく中で、事業者の方から良い提案をいただけると期待しております。

石村委員

私の中で一つ案があって、例えば枝豆が成長する様子を 1 週間ごとに見てもらって説明し、実際に農地に行ってみたいと思わせるような仕掛けはどうかと思いました。

メタバースを使って成長の過程を観察しながら、想像を膨らませて感じてもらうのもいいと思います。

例えば栽培する過程で病気になって、その対処としてこういうことをしますというような農業の苦勞も体験した上で、実際に農地に訪れれば会話も膨らむんじゃないかなと思いました。

和田会長

将来の具体的なご提案をありがとうございました。

事務局には、参考にしていただきたいと思います。

他いかがでしょうか。

鈴木委員

市民の方に取り組みに関する興味を持っていただくことが今後重要になってくると思います。

そこで、様々な完成した取り組みを紹介するだけでなく、その取り組みが実施されるまでの様子や状況を市民に適宜お知らせすることによって、より多くの方々に興味を持っていただき、参加していただけるような仕掛けが必要だと思います。

和田会長

ありがとうございました。

地域住民を巻き込む必要性ということで、鈴木委員のご専門の見地からご意見いただきました。

事務局におかれましては、今後の地方創生関係の交付金事業のエントリーや、市の事業立案等の際に、本日、委員の方々から頂いた意見を参考にしていただけたらと思います。

以上をもちまして、議事はすべて終了いたしましたので、事務局に議事進行をお返ししま

す。

事務局

皆様ありがとうございました。

皆様のご見識に基づき、活発にご意見交換いただき、感謝申し上げます。
今後、本日の内容を踏まえ、今後の本市における地方創生・総合戦略の推進に活かしてまいります。

なお、当審議会委員の皆様の任期は令和5年3月31日までとなっております。
2年間にわたり、本市の総合戦略に係る効果検証や地方創生に資する取り組みについて、貴重なご意見を賜りましたこと、感謝申し上げます。

それでは、閉会にあたりまして、政策企画部長 山原よりご挨拶申し上げます。

山原政策企画部長

閉会にあたりまして、お礼のご挨拶をさせていただきたいと思います。

本日、第2回目の審議会を開会いただきまして、委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、長時間にわたりましてご審議をいただきありがとうございました。

本日は地方創生総合戦略に係る国の動向や、本市の対応、また令和4年度の交付金事業の内容の説明、また今後の取り組みということで様々なご意見、ご提案をいただいたところでございます。

本市といたしましても、これらの意見を踏まえまして検討を進めて参りたいと考えてございます。

委員の皆様の任期が間もなくやって参ります。

新型コロナの影響もありましたが、オンラインの活用等様々なご協力のもと、進めることができましたことを改めて感謝を申し上げる次第でございます。

任期満了後につきましては、改めまして委員の募集等を行って参りたいと考えています。

引き続き本日の審議も踏まえまして、さらなる地方創生、総合戦略の推進を図って参りたいと考えています。

2年間委員として関わっていただきました皆様方にはですね、引き続いての八尾市政のご支援、ご協力をお願い申し上げまして、お礼のご挨拶とさせていただきます。

2年間誠にありがとうございました。

事務局

それでは以上をもちまして、令和4年度第2回八尾市総合計画審議会を閉会させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。